

C R D 運営協議会設立趣旨報告書

有限責任中間法人 C R D 協会の前身である C R D 運営協議会の設立趣旨について、設立者代表であった、全国信用保証協会連合会の牧野洋一会長（当時）が、次の通り設立趣旨を報告しております。

C R D 運営協議会設立趣旨報告書

平成 1 3 年 3 月 2 8 日

中小企業は、大企業に比してデフォルト（債務不履行）に関するデータなど金融機関や投資家が企業の信用リスクを評価するための情報の蓄積が未だ不十分であるため、担保に依存した資金調達がその中心になっています。このことにより、担保となる資産を十分に有していない中小企業は、必要な資金を容易に調達できない状況にあります。

かかる状況を打開し、金融機関や投資家が中小企業の信用力について、信頼性の高い評価を行い得る情報インフラを整備することにより、中小企業の資金調達環境の改善を図る必要があります。

こうした現状を踏まえ、中小企業庁は平成 1 1 年度第 2 次補正予算において、「中小企業信用リスクデータベース整備事業費」を予算計上し、情報処理進行事業協会（I P A）をとおして C R D システムの開発を行い、この 4 月から試行的運用開始の運びとなりました。

今回の開発においては、中小企業庁より、中小企業者の財務データ等を数多く保有し、且つ、本データベース整備事業の目的に沿った事業者であるとの理由から、信用保証協会に対して、本構想実現につき、特段の協力要請がなされて来たところであります。

全国信用保証協会連合会は、この様な中小企業庁の要請に積極的に協力すると共に、信用補完制度の本来的使命である中小企業金融の円滑化に資するとの観点から、「C R D 運営準備事務局」の運営母体としてその構想実現に取り組んで参りました。

全国信用保証協会連合会は、今回の試行的運用を成功させ、財政的に独立した C R D の恒久的運営組織を立ち上げるべく、ここに、C R D 運営協議会の設立を企画し、基本規約（定款）案を作成するに至りました。